

Poco a poco

— 吹奏楽部員としての心がまえを理解しよう — 練習には何をを用意する!?

練習にあたっては、大切な7つ道具

- ① 手入れの行き届いた、あなたの大切な楽器
- ② 楽譜(保管と保護の意味でもクリアー・ケースなどが良いですね)
- ③ 教則本(楽器ごとの教則本と、3Dトレーニング。)
- ④ ノート
- ⑤ 譜面台
- ⑥ メロ・ノーム
- ⑦ 鉛筆(シャーペンでもいいが、芯は2B程度なら書き込みがラク)

この7点を 練習7つ道具 と呼びます。

そして練習場所(できれば他のパートの音が聞こえない(場所))

●練習にあたってのポイント! 1.目標を持って!

「今日はこれができるようになるぞ」「今日はここまでさらおう(譜読みしよう)」という目標をもって望みましょう。できないような目標を高く掲げても、足元が悪ければあせりを生むだけで、結果には結びつきにくいものです。「夢」と「現実」が違うように、今やれること、できることも違います。

その日1日で達成できそうな目標をもって取り組むことが、上達への着実な近道です。

2.常にイメージをもとう

具体的には「ここはこういう風に吹きたい」とか「あの時間いたあんな感じの音が出したい」とか、多少漠然としていてもOK。要は、自分にとっての表現のしかたについてある方向の発想があればよい。しかし、このイメージ能力を向上させるには多くの曲やサウンドを(できれば楽譜を見ながら、あるいは生で聞きながら)聴く必要があります。あちこちの演奏会に時間の許す限り聴きに行ってみたらどうでしょうか? 他校との交流にもなり、一石二鳥です。

3.ゆっくりから練習しよう

始めはテンポの倍くらいから。この時にいちばん大事なものは音の長さの把握。同じ四分音符でも点(スタッカート)があったり棒(テヌート)があったり。テンポでいきなりやるとこれが無視されがちなので、ゆっくりのテンポでしっかり発音の区別をつけて練習すること。

4.できるところから完璧に

できるところから自信がつくまでやっていき、徐々に範囲を広げればできるところが確実に増えて行くね。

5.難しいところは地道にやろう

当たり前のようなことであるが、できないゆえに難しい。ではどうするか? テンポを落としてもいい。とにかく回数(10回・20回)を決めてじっくり、できるまで根気よくやってみよう。できたらテンポを上げて、の繰り返し。これで意外にできるようになるものです。

6.ブレスは大切

場所をよく考えないと音楽のバランスが壊れる。フレーズの合間にすばやく、たくさん吸うのが基本。フレーズの中でも分からないように少しずつ取る方法(カンニング・ブレス)もあります。よく研究しましょう。

素晴らしかった!

5月4日(土)

鶴南吹研第48回定演!

すごい!みんな音を楽しんでいるって実感できる定演でした。

音楽って素敵だな!みんなで楽しむって最高だな!観客と一体になって素晴らしいな!と実感できました。一緒に参加してくれた部員は、きっと良い刺激が得られたはずですよ。